解答一覧

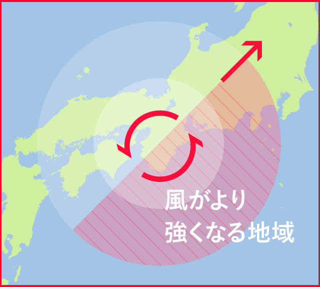
Q.01

台風の進行方向が変わらない場合、
より強風が吹くであろう地域を
(1)～(3)から選びなさい。

答え （3）

解説

台風は反時計回りに風が吹きこむ空気の渦巻きです。台風自身の風に加えて、台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くため、進行方向に対して「右」の地域で風が強くなります。（※中心や左側でも警戒が必要です）



Q.02

次のうち最も勢力が強いと考えられる台風は？※hPa（ヘクトパスカル）：台風の中心気圧の単位

答え 915hPa

解説

台風発生時、よく耳にする中心付近の気圧「ヘクトパスカル」は低いほど、台風の勢力は強くなります。ちなみに、(1)915hPaは2017年10月に日本に上陸した超大型台風の時に観測されたもの。(2)1013hPaは地球上の平均気圧。(3)1083hPaは、1965年に観測された世界記録のシベリア高気圧です。

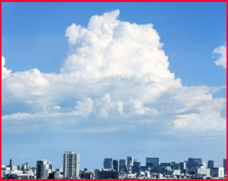
Q.03

この中で、短時間に強い雨をもたらす危険性が最も高い雲を選びなさい。

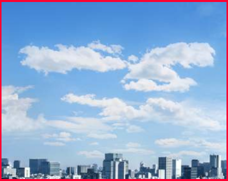
答え 積乱雲

解説

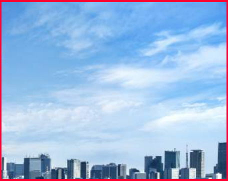
雲は小さな水の粒の集まりです。発達した「積乱雲」は高さ10キロ以上になるものもあり、それだけ多くの雨を降らせる水分を持っています。大雨や突風、落雷の危険もあるため、注意しましょう。



積乱雲



積雲



巻層雲

Q.04

1時間あたりの雨量が60mm。何が起きる可能性があるか、すべて答えなさい。

答え 土石流が起こる、マンホールから水が噴出する、車での運転が危険になる

解説

1時間あたりの雨量が30mm以上で、バケツをひっくり返したような雨になります。山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、下水管から雨水があふれることも。1時間あたりの雨量が50mm以上だと、傘が役に立たなくなるほどの激しい雨になります。視界が悪くなるため、車の運転が危険になり、土石流も起こりやすくなります。

Q.05

都市部の河川や下水道が許容できる降雨量は1時間あたり何mm?

答え 50mm

解説

東京などの大都市では、時間雨量（1時間に降った雨の体積/地表の面積）50mmを許容量として下水道や都市河川を整備しています。雨の情報を確認するときには、50mm/hを「豪雨」のひとつの目安にするとよいでしょう。ちなみに、気象庁は50mm/hよりも強い雨のことを「非常に強い雨」と定義しています。

Q.06

次の市町村長による発令のうち、
最も緊急性が高いものは？

答え 避難指示（緊急）

解説

災害時、状況に合わせて市町村長から避難を促す様々な発令が出ます。違いを知って身を守りましょう。

切迫性		
高	避難指示（緊急）	災害が目前に切迫した場合に安全な場所への避難を求める
	避難勧告	安全な場所への立ち退きを促す
低	避難準備・高齢者等避難開始	避難の準備を呼びかけ、避難に時間を要する人には避難開始を促す

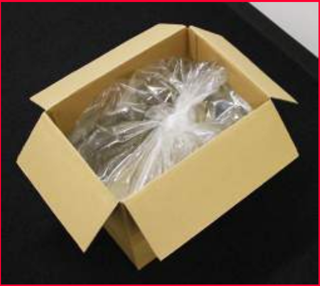
Q.07

次の中から最適なものを３つ選び、「土のう」の代わりになるものを作りなさい。

答え ダンボール箱、水、ゴミ袋

解説

浸水を防ぐために役立つ「土のう」の代わりとして、家にあるもので簡易的に「水のう」を作ることができます。二重にしたゴミ袋に水を半分ほど入れ、きつく縛れば完成。ダンボール箱に入れると強度が増して便利です。



Q.08

浸水被害を防ぐために「土のう」や「水のう」を置いた方がよい場所は？すべて選びなさい。

答え 玄関のドアの近く、排水溝の上

解説

外から室内への浸水を防ぐためには、玄関や出入り口に「土のう」や「水のう」を置くことが有効です。長めの板を置き、水のうをダンボール箱に入れて並べると簡易的な止水板にもなります。トイレや排水溝の逆流を防ぐためには、水のうを1階のトイレ便器の中に入れたり、浴室・浴槽・洗濯機の排水溝の上に載せたりすると良いでしょう。

Q.09

水深 40cm で浸水した場合、一般的にドアにかかる重さは？

答え 約64kg

解説

一般的な厚さのドアにかかる水圧は、水深10cmでも約4kg、30cmで約36kg、40cmで約64kg。雨水が流れ込みやすく、浸水の危険性の高い地下室などでは、特にドアが開かなく

なる危険性が高くなります。注意しましょう。

Q.10

浸水したときに避難する場合、
最適な履き物を選びなさい。

答え ひもで結ぶ運動靴

解説

雨が降っている時には長靴を履きたくなりますが、中に水が入ってしまい歩きづらくなる危険性があります。浸水した場合の避難には、脱げにくく、歩きやすい紐で結ぶことができる運動靴が最適です。裸足も危険なので避けましょう。

Q.11

室内に水が浸水してきている。
家の１階にいる場合、
どこへ避難するべきか選びなさい。

答え ２階

解説

豪雨で浸水が進んでいる場合、外へ出て避難所に向かうことがかえって危険になってしまうことがあります。建物の１階に

いて、急いで避難しなければならない時は、上の階へ移動する「垂直避難」を考えましょう。状況や体力に応じて避難の方法を正しく判断することが重要です。

Q.12

風速 30m/sで飛ばされる可能性があるものをすべて選びなさい。

答え　自動車、電柱、樹木、人間

解説

風速とは、10分間の平均風速のことです。最大風速が17.2m/sを超えると「台風」と呼ばれます。風速約20m/sで立っているのが辛くなり、風速約25m/sで屋根が飛ばされたり、樹木や煙突が倒れたりすることがあります。風速約30m/sを超えると、電柱が倒れたり、車や子供などが飛ばされたりする可能性があります。

Q.13

台風時、風で窓ガラスが割れないように退けておくべきものをすべて答えなさい。

答え 物干し竿、植木鉢、濡れた雑巾

解説

台風の際には、雨だけでなく風による被害にも注意が必要です。暴風によって、庭やベランダの物が飛ばされて窓ガラスが割れる危険性があります。濡れた雑巾や洗濯物、小石ですら、窓ガラスが割れる原因になる可能性も。台風が予想されたら、庭やベランダに置いてあるものを屋内に片付けておきましょう。

Q.14

家族の安否を知るため、災害用伝言ダイヤルの番号に電話をかけなさい。

答え 171

解説

災害発生時は、被災地に通話が集中し電話が繋がりづらいことがあります。そんな時に提供されるのが災害用伝言ダイヤル。自分か相手の電話番号を入力すると、メッセージを残せたり、聞いたりできます。

Q.15

河川の状況を知る際に参考にすべきWebサイトを選びなさい。

答え　河川情報サイト

解説

国土交通省「川の防災情報」やYahoo! 天気・災害「河川水位情報」では、リアルタイムに河川の水位が確認できます。土砂災害のハザードマップや雨雲レーダーなども確認して、自ら危険を知ることが重要です。

河川洪水
発表なし
注意
警戒
危険
氾濫発生
北上川
名取
最上川
阿賀野川・阿賀川
阿武隈川
日本
Japan
庄川
神通川・宮川
手取川
九頭竜川
木曽川
利根川
相模川・桂川
庄内川
矢作川
安倍川
2018/8/15 11:30
(C)Yahoo Japan,(C)GeoCatalog
浸水想定区域内の浸水深
~0.5m
~1.0m
~2.0m
~5.0m
5.0m以上

Q.16

次の災害を種別する図記号のうち、洪水を示すものは？

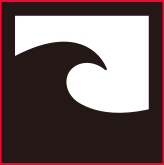
答え　洪水・内水氾濫

解説

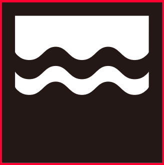
災害種別の図記号は、避難場所などがどの災害に対応しているか表示するために制定されています。これらの表示

を覚えておくと、旅行で初めて訪れた場所などでの避難で役に立ちます。

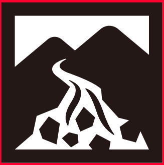
平成28年3月22日付でJIS改正・制定された災害種別図記号



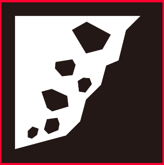
津波・高潮



洪水・内水氾濫



土石流



崖崩れ・地滑り

Q.17

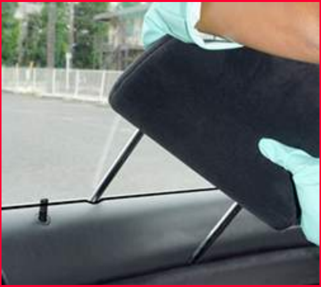
車の中で浸水して動けなくなってしまった場合、脱出に最も役立つものを答えなさい。

答え

ヘッドレスト

解説

浸水した車から脱出するために、取り外したヘッドレストを活用することが可能です。棒の部分をドアの窓ガラスの隙間に差し込み、手前に倒すと、テコの原理で窓ガラスを割ることができます。



Q.18

1kmの距離に雷が落ちた場合
何秒後に音がなるか。
タイマーをタップして答えなさい。

答え 約３秒

解説

空気中の音速は約340m/秒なので、落雷地点から1km離れていた場合は音が聞こえるまでに約3秒かかります。雷がピカッと光ってから1秒後に音が聞こえた場合は、約340mしか離れていないということになります。目安を覚えることで、雷との距離を把握しましょう。ただし、落雷地点が遠くても、雷が落ちる可能性はあるので油断は禁物です。

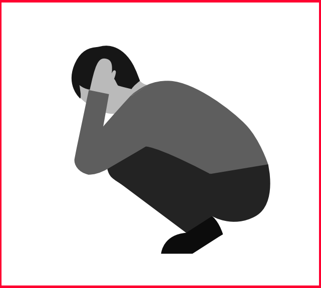
Q.19

雷が鳴った時、近くに安全な場所がない
場合の正しい退避方法を選びなさい。

答え 4m離れてしゃがむ

解説

落雷時、近くに安全な避難場所がない場合、立っていては危険です。電柱などから4m以上離れて「雷しゃがみ」のポーズをしましょう。姿勢を低くかがめて耳をふさぎ、足は爪先立ちすることがポイントです。



Q.20

次のうち実在する非常食は？
すべて答えなさい。

答え

栄養補給できるようかん
温めなくていいカレー
25年保存できるシチュー

解説

災害時に備えて、日頃から非常用の水や食料を備蓄しておくことが重要です。最新の非常食もチェックして、もしもの時に備えておきましょう。

えいようかん
（井村屋）

常備用カレー職人
（江崎グリコ）

サバイバル®フーズ
（セイエンタプライズ）

Q.21

大規模災害発生時から72時間以内に接続可能になる無線LANは？

答え 00000JAPAN

解説

平成28年4月の熊本地震に伴い、災害時にインターネット接続ができる公衆無線LAN「00000JAPAN」（ファイブゼロ・ジャパン）が開設されました。災害時に必要な情報が取得できる手段として覚えておきましょう。利用は無料ですが、暗号化がされていないため、個人情報などを含む通信には注意が必要です。

Q.22

水道が復旧。
最初に水を流してはいけない場所は？

答え トイレ

解説

断水後の水に空気や異物が混ざっていると、トイレやウォシュレットが壊れることがあります。水道が復旧したら、一般的にまずは屋外に設置された水道を流すことが望ましい

でしょう。屋外に水道がない場合は、洗面所や台所などトイレ以外の水道で透明になるまで水を流しましょう。

Q.23

浸水後、車を使いたい場合の正しい行動は？

答え バッテリーのマイナス端子を外す

解説

一度水没・冠水した自動車は、電気系統の漏電で火災が発生する可能性があるので、エンジンをかけようとするのは大変危険です。発火を防ぐため、バッテリーのマイナス側のターミナルを外しておきましょう。車を使いたい場合には、販売店や整備工場に相談することが大切です。

Q.24

水が引いた後の泥の処理。正しい行動は？

答え 泥が完全に乾く前に洗い流す

解説

浸水によって付着した泥は細菌や匂いの発生源になってしまう

可能性があります。泥などで汚れた家具や床などは乾く前に、水で洗い流すか雑巾で水拭きして取り除きましょう。土砂災害の場合は、水が引いたあとも危険な場合があるため注意が必要です。後片付けは周囲の安全が十分に確保されてから行いましょう。

Q.25

住まいが浸水した際に、被害認定として「半壊」とされるものは？

答え 床上1m未満

解説

床上1m以上の浸水の場合、「大規模半壊」と認定され、支援金などを受けることができます。床上1mに満たない浸水は「半壊」、床下浸水では「一部損壊」と認定されます。浸水を受けた家屋は片付ける前に、浸水の深さや被害の状況がわかる写真を撮影しておきましょう。保険やり災証明書の取得、他の支援制度を受けるために必要になります。